

ヤシガラを使った養液栽培の普及に向けた診断基準の作成

【研究概要】

①分析方法の及び養分動態の把握：異なる性状のヤシガラを8種用いて、振とう時間による水溶性成分の溶出量を検証した。EC・pH測定に関しては、ヤシガラと純水の固液比を重量で1：50、振とう時間は30分と定めた。

②育苗段階におけるヤシガラのECが作物生育に与える影響把握：2種の試薬を用いてヤシガラのECを上昇させ、育苗試験を実施することで、トマト育苗時におけるヤシガラの適正ECが2.0mS/cmであることを確認した。また、ヤシガラ中の水溶性成分の多少がヤシガラの育苗・定植後のトマトの生育にどのような影響を与えるか試験した。水溶性成分が多いヤシガラを用いてトマトを育苗すると、7割程度生育不良が発生するが、同ヤシガラに石灰を加えた場合では生育不良は発生しなかった。また、水溶性成分が多いヤシガラで育苗したトマトを定植したところ、初期収量が低下するものの、総収量には影響しなかった。